

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300205		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	あいの街富士川		
所在地	富士市岩淵131-1		
自己評価作成日	平成23年12月2日	評価結果市町村受理日	平成24年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2292300205&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2292300205&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の思いを大切に人らしく暮らせていけるようにスタッフが心がけながら利用者本人が楽しく暮らしていけるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士川に近く、小学校やまちづくりセンターにも隣接する住宅地に立地している。小規模多機能事業所を併設していて、花見や遠足、お誕生日会、クリスマス会などの行事を合同で開催している。また、近くに幼稚園や小学校があるという利点を活かし、園児や児童を招いての交流をおこなっている。昨年の開設にあたってはポスターなどで広報し、内覧会を充実させていて、老人会の見学では「地域の中でこのような施設があるといいね」などの声も上がっている。また民生委員の紹介により、行事に際してボランティアが協力してくれ、毎月歌唱ボランティアによる披露もある。運営の方針として、施設側のスケジュールを押し付けることなく、個々の生活スタイルに合わせた生活が実現できるように調整している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をスタッフみんなで考えて作りフロアーに掲示してありみんなで共有している。	職員が意見を出し合って理念を作成した。実践にあたっては理念の文言に限らず、理念に謳われていないグループホームのあるべき姿の実現をめざしている。グループホームでの経験が少ない職員もいるため、経験を重ねながら理念の浸透をはかっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所が開所して1年になったばかりなので一人として地域に交流はまだしていませんが近くに小学校、幼稚園があるので子供達が来てくれたりして楽しい時間を過ごしています。	散歩の際には地域の人と気軽に挨拶を交わしたり、ゴミ袋を持参してゴミ拾いもしている。小学校、幼稚園が近いこともあり、小学校からクリスマス会に招待されるなどの交流がおこなわれている。今後は、地域の運動会などへの参加も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をとうして事業所のサービスの仕方などを説明しながら地域の人達に理解をしてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い現状報告とサービス内容を説明をしたりして出席者からの助言をもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議には小学校校長、老人会、民生委員など近隣の参加も得ている。予め議題を用意して参加者から意見が出やすくなるように工夫している。小学校校長が運営推進会議に参加していることにより、学校と施設との連携ができる機会として役立っている。	参加者ならびに参加できなかった人への議事録の配布も検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括の方、市役所の方に運営推進会議に参加してもらい事業所の実情やサービスの取組を聞いてもらい、富士市の連絡協議会にも参加して情報交換をしながら関係を作れるようにしている。	運営推進会議には市職員の参加を得ている。地区のグループホーム連絡協議会に参加しているため、市職員との意見交換の場として機能し、また事業所間の情報交換や職員研修の場としても役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修をしています。利用者様が施設から自由に入出入り出来るように玄関も鍵をしないで拘束のない支援をしている。	身体拘束ゼロ宣言をおこない、玄関と2階エレベーターホール等の施錠はしていない。定期的に研修会に参加し、言葉の拘束も身体拘束に該当すると認識して指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を職員は受けている。入浴の時に体を洗いながら虐待がないかも気をつけて虐待防止に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所対象者がいない為研修機会はありません。今後相談業務などで関わりが考えられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を説明して納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族参加してもらい意見を言ってもらい運営に反映できるようにしている。	運営推進会議には家族が参加し「趣味を継続してほしい」「事故を防いでほしい」などの意見が出ている。家族の面会も比較的頻繁にあり、面会の際には家族に対して日頃の生活状況を報告している。また、「あっとほーむ新聞」という情報紙を月刊で家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開きスタッフの意見を聞きながら日々の業務に取り組んでいる。	ミーティングの中では意見が挙げられにくいこともあり、管理者が個々に面談して意見を聞いている。法人として自己評価の機会もあり、目標をもった取り組みをおこなっている。若い職員と年配の職員のコミュニケーションは比較的良好であるという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に何回か自己評価、管理者の評価をしながら職員の目標を作って各自職員が向上心を持って働けるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修。 管理者の認知症実践者研修への参加。 社内での月1回の研修参加。出席者は、職場会議において内容を他の職員へ伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の小規模多機能連絡協議会に参加してしネットワークづくり繋がりが出来るように取り組みながらサービスの向上に努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをとり利用者様の要望等を聞き利用前にミーティングを開きコミュニケーションのとり方を話しあい利用をスタートしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのアセスメントをはかり利用者様要望を含めて家族と信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他職種との連携をはかり利用者のその時の状態や家族の要望にあわせていつでも対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身の回りの事はできるかぎり本人に行ってもらい利用者様どうしでの作業も職員が見守りながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への参加を促している月に1度新聞を作り家族に郵送したり面会時に情報交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントの企画を利用者の生活暦などに関わりのある場所などを取り入れながら支援している。	家族からの聞き取りにより、手芸や生け花など、入所前からの趣味が継続できるように支援している。外出の際には利用者の希望により、公園など馴染みの場所に一緒に行く支援もおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の時間を大切にしながら利用者様全員でできるイベントも企画している。利用者様同士がお互いに声を掛け合い楽しく生活している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャー、地域包括支援センターから情報を得たり、近くを訪れた時は利用者宅を訪問し、本人、家族の現在の様子を把握できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に直接会いニーズを聞きとり計画書の作成につなげている。困難時は職員間で様々な視点から可能性を考え話し合いをしている。	認知症の進行により、判断が難しくなっていることも多い。そのため思いや意向が把握しにくい時には、表情や動作の反応を確認して接している。3ヶ月に1回アセスメントを再確認し、把握した意向は経過記録として残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー、地域包括支援センターより得た情報とアセスメント時に家族、地域の方々から得た情報をもとに職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、申し送りにより職員間で情報交換、共有をしている。連絡ノートにより、バイタル状態、食事、排泄、その日の様子を記入し、自宅での様子も把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からどんな生活を送りたいのか、どんなことに困っているのかを聞き、計画書に反映させている。また、担当者会議を開き、本人、家族、ケア関係者で意見交換、情報の共有をしている。	ケアマネージャーがモニタリング担当など他の職員の意見を聞きながら、責任をもって計画を作成している。計画作成にあたり、具体的な実践をプランに位置付けるようにしている。	職員のプランに対する意識が高まり、モニタリングの能力が向上することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の食事摂取量、排泄状態、バイタルチェック、日常生活の状態を記入し、日々の変化の観察をしモニタリングの項目チェックを行いながら計画書の支援内容につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の生活スタイルに合わせて多機能を活かした個々の利用方法に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人、家族と相談、話し合いのうえ主治医を決めている。受診、往診時には施設内での様子、状態を医師に伝え、適切な処置、治療が受けられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護職が疑問に思った事、気づいた点などを看護職が在勤時に情報共有できるように申し送りノートの記入をしている。看護師からのアドバイスを個々の支援につなげている。	本人家族の同意のうえ、多くの利用者は協力医に変更している。協力医は月2回程度の往診があり、24時間連絡できる体制もできている。週2回は看護師の健康管理がおこなわれ、ケア方針の参考にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院の相談員との情報提供、交換をしている。退院時は担当医師、看護師より情報を得るためのアセスメントを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の変化に伴い、本人、家族、主治医との話し合いにより今後の方針を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は救命救急講習を受けている。まだ受けていない職員も今後受けていく予定である。	予め終末期に施設で出来る事の説明を家族におこなっているが、積極的に受け入れることを目指している。日頃の観察や疾患に対する知識を向上することで看取りが必要になった場合に備えている。職員は年1回救急講習を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練を行っている。災害時は近隣の小学校を避難所とし地域での協力体制をとっていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い職員が落ち着いて行動できるようにしている。	消防署立ち合いのもと避難訓練を実施したり、屋外の非常口を使って利用者を誘導する訓練も実施している。また、看護師の立ち合いで心肺蘇生の訓練もおこなっている。貯水タンクを備えている為、飲料水等の心配は少ない。	地域の防災訓練に参加したり、夜間想定に取り組むことも期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の思いを大切にしながら声掛けをしている。	失禁についての打ち合わせや、家族からの電話については別の部屋で打ち合わせるようにしている。職員の接遇については友だち感覚にならないように、場所をわきまえて接するようこと指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を着替えて頂く際、職員と一緒にどの服にするかなども思いを大切にしながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の一日のペースを把握しながら行動を確認しながら希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型のセット等は、利用者様自身でして頂いたり、好みを聞きながら職員と一緒にを行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下準備、出来る所は手伝って頂き、食後は食器拭きをしてもらっている。	手作りの食事を提供している。利用者と一緒に調理の下ごしらえや片付けをしていて、若い職員は利用者から調理方法を教えてもらうこともある。行事ごとに特別食を提供し、例えばハロウィンではオードブルが盛られるなど食事を楽しめる取り組みが覗えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に食べる量をチェックして栄養摂取や量を把握しながら気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けをしながら週間づけてもらえるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がない様一人ひとりの排泄パターン、タイミングを把握し、誘導している。	トイレでの排泄を目標としている。チェック表で排泄状況を確認することで、適切なトイレ誘導につながっている。事業所の方針として、リハビリパンツやオムツを安易に使用しない取り組みをおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に、ヨーグルトやオリゴ糖等を入れなるべく下剤を使わないやり方で便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく利用者の希望時間を聞き入浴を行っている。気持ち良く入浴できるように支援している。	浴室、脱衣室には大型の赤外線ヒーターが設置されている。浴室は広く、入浴や洗身の介助が必要になっても十分なスペースが確保されている。浴槽の湯は利用者ごとに交換し好きな入浴剤を選択でき、バスマットも清潔なものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人がしたい時に休息をしていただく。安心して眠れるようにスタッフが見守りしていることを伝えて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は二重にチェックし、誤薬や飲み忘れをふせぐ様努めている。薬が変わる度に毎回チェックする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一つ一つの行事に沿ったレクリエーションを取り入れ、皆でつくりあげていく昔一人ひとりが行っていた日常生活の再現を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望が出た場合、下見をし安全を確保した上で、外出」の支援をしている。	週1~2回は散歩に出かけ、散歩コースからは富士山も見える。遠方への外出にあたっては、利用者から好きな場所を聞き取り、職員が下見してからが支出するようにしている。外出時の買い物では、利用者がレジでの支払いをするなど自立のための取り組みもおこなわれている。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけ実際にお金を払ってもらったりしながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	比較的面会に来てくれる家族が多く利用者様とのコミュニケーションは取れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面においては常に清潔を保ち、利用者が使いやすい状態にしてある。居室は利用者様の今までの生活を崩さないようにしつつ、リビングや廊下等を何月であるか季節はいつなのか感じ取れるようにしている。	館内は観葉植物が置かれ、木材を活かしたレイアウトにより、清廉で落ち着いた雰囲気が感じられる。また、共用空間や廊下の壁面にはちぎり絵などが飾られている。訪問時はちょうどクリスマスのデコレーションがおこなわれ、賑やかで楽しい雰囲気が創られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	強制はしないようにしている本人がしたい時にしたい事が出来る環境を作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用してもらい居室内は利用者様生活感を大切に、物のいち等も崩さないようにしている。散らかった場合等はスタッフが付き添い確認しながら片付けている。	居室内には家族の写真が飾られていたり、タンズなど馴染みの品が持ち込まれている。居室によっては富士山が望める部屋もある。隣接する小学校のプールからは夏期になると活気ある賑わいが聞こえるという。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	定期的に利用者様のアセスメントを行い出来る事出来ない事、等把握しながら支援している。		